

逗子市文化振興基本計画調査・評価委員会

令和元年度事業に関する評価報告書

令和2年10月

目 次	頁
1. 趣旨	1
2. 調査・評価の対象と方法	2
3. 総括	3
4. 基本計画と対象事業の関係	5
5. 評価シート	10
参考資料	25
1. 逗子文化プラザホール 令和元年度自主文化事業一覧	
2. 逗子市文化振興基本計画 調査・評価委員会規則	
3. 逗子市文化振興基本計画 調査・評価委員会 委員名簿	
4. 逗子市文化振興基本計画 調査・評価委員会 会議日程	

1. 趣旨

逗子市文化振興条例（平成 21 年 10 月）（以下、「条例」という。）では、「文化創造の主役は市民であり、市民は文化を創造し、享受する権利を持つことを市は認識しなければならない。そのために、市は市民の文化活動を広く支援し、必要な環境を整備する使命を負っている。」（前文より）と述べ、市の責務として「市は、文化活動を行う市民、団体及び事業者と協働し、地域における人材、資源、情報等を活かして、文化の振興を図るものとする。」（第 4 条第 3 項）と定めている。この条例は、制定の際に様々な検討が重ねられた結果、文化を独立した行政分野として位置付け、その振興に取り組むべきであることを指摘し、文化における市民の権利を明文化するとともに、市の文化振興施策の基本方針を定め、市の責務をより明確に示したものである。

これに基づき、「文化振興施策を総合的かつ計画的に推進するため」に『逗子市文化振興基本計画（平成 23 年 3 月策定、平成 27 年 3 月改訂）』（以下、「基本計画」という。）を策定した（条例第 5 条）。そこで「地域の文化を市民の手で拓く」を基本方針として、6 つの「施策の柱」のもと、18 の「基本施策」を体系化している。

また、「基本計画の推進に当たって、基本計画に基づく施策、事業等が的確に実施されているかどうか等について、調査、評価等を行う組織を設置するもの」（条例第 7 条）とされ、平成 24 年度に文化振興基本計画調査・評価委員会（以下、「委員会」という。）が発足した。この組織は、「基本計画の内容及び基本計画に基づく施策、事業等の評価、見直し等について調査、検討を行い、その結果に基づき市に提言するもの」（条例第 7 条第 2 項）とされている。

令和元年度の評価に当たっては、平成 30 年度に引き続き、平成 29 年度に見直した調査・評価の方法を基本的に継続することとした。基本計画の 6 つの「施策の柱」とそれぞれの施策の柱の下に位置付けられた「基本方針」が、令和元年度中に実施された事業によってどの程度実現できたか、という視点から評価するとともに、上記の事業のうち、基本計画の上位計画である逗子市総合計画実施計画及び基幹計画「共に学び、共に育つ、共育（きょういく）のまち推進プラン」の対象事業として位置付けられているものについては、計画上での目標を示し、達成状況について評価の中で考慮する、というものである。

今後、この評価報告書を踏まえ、基本計画に基づく施策や、事業がよりの確に実施され、市の文化振興施策が市民に資するものとなることを願っている。

2. 調査・評価の対象と方法

令和元年度は、平成 29 年度に行った評価方法の変更と、平成 30 年度の追加事項を、そのまま継続することとした。

評価に当たっては、6つの「施策の柱」毎の評価シートを設けて、「基本施策」が掲げる目標に対して、対象事業の取組みの結果と、文化振興所管課（文化スポーツ課）の自己評価を求め、それに対する本委員会としての評価を行った。評価は、実現度合いを以下の3段階で評価した上で、意見を述べることとした。

- a. 順調である。
- b. 概ね順調である。
- c. 順調であるとみなせない。

平成 30 年度に追加した、基本計画の6つの「施策の柱」と平成 30 年度中に実施された事業（以下「対象事業」という。）の関係を図式化したものは、内容を更新した。

また、新型コロナウイルス感染症の影響に関することを、該当する「施策の柱」毎の評価シートに追加した。

3. 総括

「1. 趣旨」に記したとおり、基本計画は、基本方針「地域の文化を市民の手で拓く」の下に6つの「施策の柱」を掲げ、本委員会ではこの6つの「施策の柱」に沿って毎年度の評価を行っている。また、基本計画の推進に当たって重点的に取り組むべき事業として4つの事業が挙げられており（6つの「施策の柱」との関係は次ページの「4. 基本計画と対象事業との関係」を参照）、平成27年度（2015年度）から令和4年度（2022年度）までの8カ年の計画期間を3期（平成27年～28年度、平成29年～令和元年度、令和2年～4年度）に分け、具体的な行動計画が策定されている。

令和元年度は、行動計画の2期目の最終年度に当たり、令和2年度からは3期目を迎えることとなる。改めて令和元年度までの2期目の3年間（平成29年～令和元年度）での進捗を確認し、中期的な視点から見てどういった成果が得られ、また事業が順調ではなかった場合にあっては、何が問題だったのかを明らかにする必要がある。

そこで今年度は、基本計画の「重点事業」である4項目の進捗状況から総括することとした。

「(1)『逗子アートフェスティバル』の継続」及び「(2)アウトリーチ活動の充実」については、行動計画に照らし順調に進捗していると評価できる。「逗子アートフェスティバル」は、平成29年度の「逗子アートフェスティバル 2017」のトリエンナーレの後、企画運営が市民からなる逗子アートネットワークに移り、市民主導の体制となって2年が経過した。その結果、地域文化の担い手の育成や市民の文化活動の活性化に貢献する事業に成長してきている。「アウトリーチ活動」は、公立学校だけでなく幼稚園・保育園等の未就学児や、介護福祉施設等に実施対象を広げ、ホールでの鑑賞型事業のテーマと関連させる等、アーティストやホール事業への理解と親しみにつなげる仕組みを構築しており、評価できる。

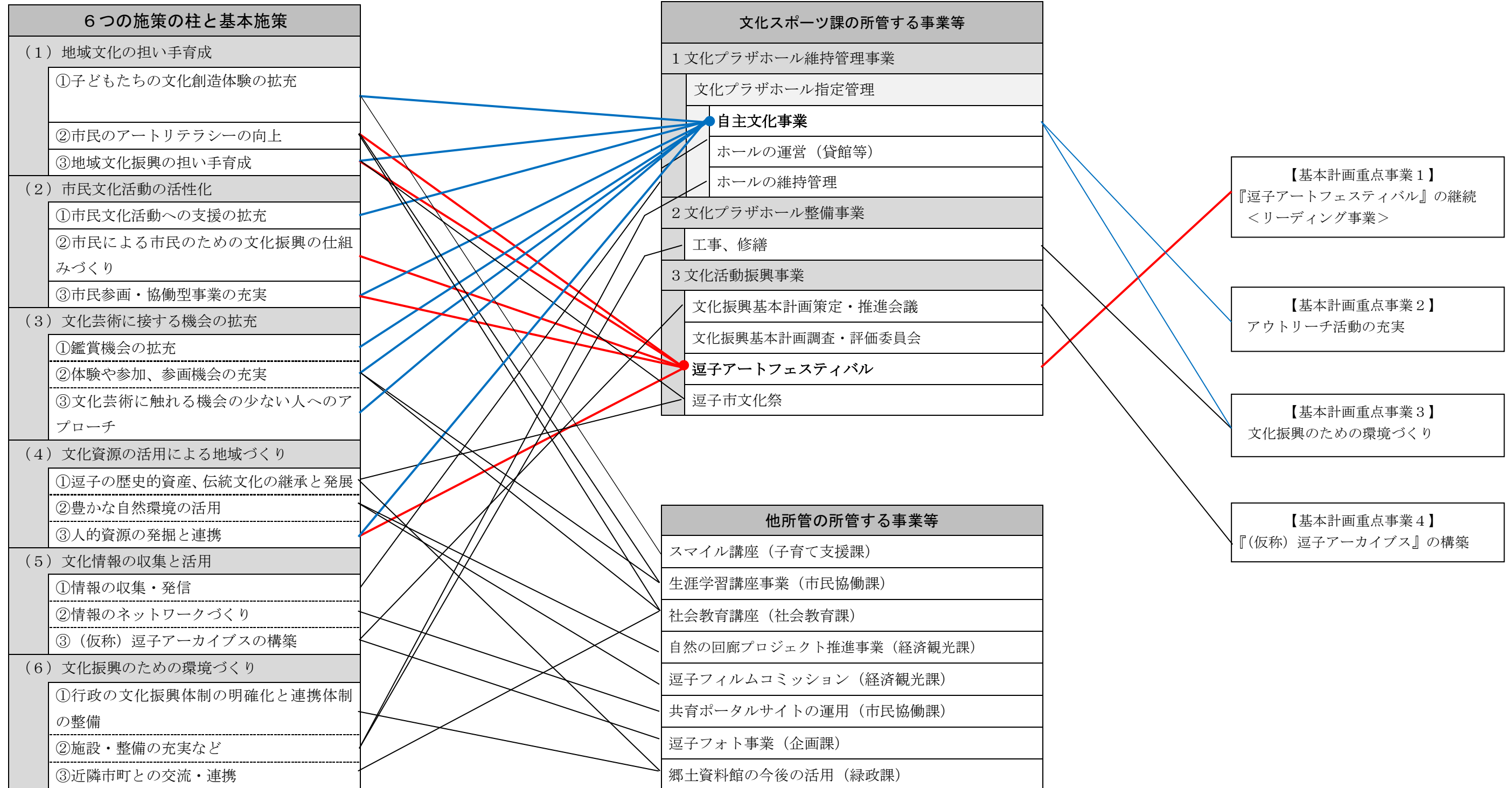
「(3)文化振興のための環境づくり」については、文化振興の拠点であるホールにおいて、運営・維持管理の両面に改善が見られ、評価できる。運営に関しては、ホールの自主文化事業における「逗子子ども能」から「逗子子ども落語教室」への移行、「舞台技術体験講座」をはじめとする体験型プログラムの拡充と推進、スペインセーリングチームとの交流会事業における逗子市体育協会との連携、情報発信の拡充等、従前からの改善の視点、ホールの外へ向けての視点が奏功している。維持管理に関しては、利用者の高い満足度を維持するとともに、バリアフリー化やユニバーサル・デザインの導入等を検討している。一方で、平成30年度の調査・評価においても指摘した、行政内における組織的・継続的な文化振興の体制づくりは、未だ関係所管間での情報共有に留まっている。令和元年3月に閉館された郷土資料館の建物や資料等の活用という課題を好機と捉え、庁内での連携・協力体制の構築に努めてもらいたい。

「(4)（仮称）『逗子アーカイブス』の構築」については、「逗子フォト事業」に将来的に組み込んでいく方向で検討されたものの、未だ全体的なビジョン（目的や基本的な方針）が具体的になっていないことは課題である。「逗子フォト事業」との関係性も含めたビジョンの策定と長期的な計画の設定、関係所管で連携・協力の上での推進体制づくり等、具体的な取組みへと移行してもらいたい。

全世界的な新型コロナウイルス感染症のまん延や、近年多発する自然災害の中で、文化振興はともすると市民生活にとって「不要不急」のものと見なされがちである。しかし、文化は単に市民の娯楽や教養に留まるだけでなく、人々の交流や地域のアイデンティティを形成するものであり、まちづくりの要の一つであることを、行政は今こそ再認識すべきと考える。

そのためにも文化振興に関わる庁内での連携・協力の堅固な体制と、市民や文化団体等との協働のためのプラットフォームの形成に努めてもらいたい。

4. 基本計画と対象事業との関係



5. 評価シート

逗子市文化振興基本計画調査・評価委員会 令和元年度事業に関する評価報告書 対象事業一覧

(1) 地域文化の担い手育成		(令和元年度実績)
①子どもたちの文化創造体験の拡充		(令和元年度実績)
●【ホール】アート便 2019	市立小中学校6校で実施。新規で私立幼稚園(聖マリア幼稚園)でも実施。授業数13件を実施。園児・児童・生徒延べ1,124名参加。 ★上記のほか、2校、授業数6件は、コロナによる休校で中止。	市立小中学校全8校で21件。1,924名参加。
●【ホール】逗子こども落語教室	11月16日(土)。小・中学生18名参加。稽古全5回。	—
—	—	逗子こども能2018を開催。小・中学生19名参加。稽古全21回。
●【ホール】盆踊りワークショップ(アウトリーチ)	6月20日(木) 聖マリア幼稚園、6月25日(火) かぐのみ幼稚園。8月のホールオープンデーとスペインセーリングチーム交流会に向けて、東京五輪音頭のワークショップを開催。	—
●【ホール】絵本作家山本省三さんと一緒に絵本をつくろう 2019 こどものための手作り絵本講座	7月21日(日)、22日(日)、25日(木)、30日(火) 2クラスで開催。70名参加。	2クラスで開催。69名参加。
●【ホール】手づくり絵本講座展示(こども)	8月4日(日) ホールオープンデーに合わせて開催。15作品を展示。	8月5日「手づくり絵本のミニ展覧会」ホールオープンデーに合わせて開催。
●【ホール】和太鼓彩-sai-アウトリーチ(双葉保育園)	8月26日(月) 双葉保育園で実施。園児130名参加。コミュニティ助成事業	—
●【ホール】ブリッツ吹奏楽クリニック アンサンブルチャレンジ!	9月28日(土)、10月6日(土) 市立中学校2団体(木管打楽器8重奏、金管6重奏、全体合奏)、逗子開成中学校・高等学校2団体(木管8重奏、金管8重奏)	—
●【ホール】和太鼓グループ彩-sai-逗子公演	10月5日(土) なぎさホール、502名来場。逗子開成高等学校和太鼓部との共演も行った。共演に先立ち、事前指導を8月から全4回実施。	—
●【ホール】講座 舞台の仕事について知る	10月21日(月)、28日(月) 逗子高等学校。1年生の総合的学習のワークショップの一つとして開催。18名参加。	—
●逗子市文化協会によるスマイル講座	小学生～高校生を対象とした講座を、文化協会会員が講師として実施。(所管:子育て支援課) 和楽器(全6回)、ダンス(全9回)、いけばな(全4回)、囲碁(全4回)、バレエ(全4回)、茶道(全6回)、アート(全7回:トールペイント・マカロンポーチ2回、砂絵4回) ★コロナにより4回中止	和楽器(全6回)、いけばな(全4回)、茶道(全1回)
②市民のアートリテラシーの向上		(令和元年度実績)
●逗子アートフェスティバル 2019 の開催	10月18日(金)～10月28日(日)。来場者数約6,000人。	10月12日(金)～10月28日(日) 来場者数約23,267人。
●市民による文化事業への後援、協力	共催1件、協力3件、後援23件 合計27件。★コロナにより2件中止、1件延期	共催1件、協力10件、後援15件 合計26件。
●文化に関する講座の実施	生涯学習講座事業104講座(所管:市民協働課)うち、ずし楽習塾講座は21講座94回。参加者延べ1,566名。社会教育講座8講座(文化芸術関連)、参加者延べ294名。うち、文化財関係は3講座。県立近代美術館入門講座全4回。(所管:社会教育課)	生涯学習講座事業111講座、ずし楽習塾講座は29講座108回。参加者延べ1,343名。(所管:市民協働課) 社会教育講座4講座 参加者延べ78人。文化財関係1講座、参加者40名(所管:社会教育課) ホールにおける講座「能楽事前講座」2回開催。一回目28名、二回目12名参加。(定員各50名)
③地域文化振興の担い手育成		(令和元年度実績)
●逗子アートフェスティバル 2019 自由企画、ボランティア活動	自由企画等作品公募は行わず、逗子アートネットワークに参加したメンバー(市民等)の作品展示を行った。ボランティアも公募はせず、逗子アートネットワークメンバーのほか、過去のボランティア経験のある市民に個別に参加を依頼する等した。	アートフォリオ展12作品のうち市民参加6作品、ボランティア活動延べ173名が参加。

●第69回逗子市文化祭	10月25日(金)～11月11日(月)。芸能部門10行事、展示その他部門8行事。入場者数5,830名。昨年度に引き続き独自開催。	10月26日(金)～11月12日(月)。芸能部門7行事、展示その他部門行事。入場者数5,966名。逗子アートフェスティバルから分離して開催。
●【ホール】若手演奏家シリーズ	7月6日(土)「#9 Piacere -フルート四重奏-」さざなみホール、112名来場。 ★3月8日(日)「#10 音の饗宴-ソプラノ×ヴァイオリン×ピアノ」は、コロナによる休館により中止。	#7 142名来場、#8 141名来場
●【ホール】ZUSHI COMMUNITY PARK GARDEN CAFE KAMEGAOKA 2019 SPRING/AUTUMN との連携 若手演奏家の出演	5月18日(土) 亀岡八幡宮。逗子コミュニティパーク実行委員会主催のイベントに若手演奏家シリーズ#9の演奏家が出演。(フルート) 11月3日(日) 亀岡八幡宮。逗子コミュニティパーク実行委員会主催のイベントに若手演奏家シリーズ#10の出演者が出演。(ソプラノ、ヴァイオリン、ピアノ)	5月20日(日) #7の演奏家、11月3日(土祝) #8の演奏家が出演。
—	—	9月18日(火) スペインセーリングチーム事前キャンプ協定締結式ミニコンサート 若手演奏家の出演。
●【ホール】ZUSHI パフォーマーズフェスタ vol.5	10月19日(土) 応募8件に対して5組出演。	応募14件に対して4組が出演。
●【ホール】ボランティアライター活動	ボランティアライター登録数11名。 ★3月7日(土)「情報発信協力ボランティアスキルアップ講座」コロナによる休館により中止。	登録12名。
●【ホール】レセプションistフォローアップセミナー	★3月1日(日) コロナによる休館により中止。	レセプションist 15名参加。
(2) 市民文化活動の活性化		
①市民文化活動への支援の拡充		(令和元年度実績)
●【ホール】講座 舞台の仕事について知る ※前掲	逗子高等学校の高校生対象。ホール舞台技術担当者が講師を務め、ホールにおける舞台の仕事に対する知識と、音響については体験も交えて実施。	市民企画講座 舞台技術体験講座。ホールで実施。参加者を一般募集し1名参加。
●【ホール】絵本作家山本省三さんと一緒に絵本をつくろう2018 おとなのための手作り絵本講座	11月24日(日)、12月8日(土)、12月15日(日) 3回開催 36名参加。	3回開催。34名参加。
②市民による市民のための文化振興の仕組みづくり		(令和元年度実績)
●逗子アートフェスティバル2019実施を目的とした、逗子アートネットワークの活動	全体でのミーティング13回、発起人や担当者だけのミーティング12回、池子の森の音楽祭ミーティング2回、ワークショップ2回	全体ミーティング13回、発起人及び担当者のミーティング12回、池子の森の音楽祭ミーティング2回、ワークショップ2回。
③市民参画・協働型事業の充実		(令和元年度実績)
●逗子アートフェスティバルの継続、逗子アートネットワークのメンバーの新規募集	逗子アートフェスティバル2018終了後、逗子アートネットワークは一度解散という形を取り、新たなメンバーを募集し、企画を立ち上げた人も出た。	6回目となる公募。アートフォリオ展12作品のうち市民参加6作品、自由企画6企画。
●【ホール】市民企画事業/創造支援企画	5月22日(水)「第2回敬老寄席駅前寄席 in 逗子文化プラザホール」。なぎさホール、461名入場。 1月6日(月)「初春 バレエ祝賀コンサート」。なぎさホール、250名入場。 ★3月14日(土)「第23回癒しのクラシックコンサート オーケストラ演奏会」コロナによる休館により中止。	3公演を実施。 駅前寄席434名。街角おんがく会140名。コンチェルト・カメラアローズコンサート140名。
●【ホール】ホールレセプションist (Re-Ce) 活動	ホールレセプションist (Re-Ce) 活動を継続実施。	ホールレセプションist (Re-Ce) 活動を継続実施。
●【ホール】第4回トモイクフェスティバル	★3月21日(土)～22日(日)に開催予定だったが、コロナによる休館により中止。	3月23日(土)～24日(日)に開催。
(3) 文化芸術に接する機会の拡充		
①鑑賞機会の拡充		(令和元年度実績)
●【ホール】鑑賞型事業の実施	8件実施。鑑賞型事業の参加者満足度平均84.9%。	11件実施。
●【ホール】図書館音楽会～with こどもブリッツ～	8月4日(日) 図書館のおはなし会で、ブリッツフィルハーモニックウインズのクラリネットがミニ演奏会を開催	—
●【ホール】ウィークデーマチネ 神奈川フィルハーモニー管弦楽団アンサンブル	2月12日(水) さざなみホール、75名来場	—
②体験や参加、参画機会の充実		(令和元年度実績)
●【ホール】逗子こども落語教室 ※前掲	6月から10月まで全5回の稽古を実施。11月16日(土)『逗子こども落語教室発表会』を開催。	—
—	—	逗子こども能2018を実施。小・中学生19名参加。稽古全21回。

—	—	8月～10月の間全5回で、逗子アートフェスティバル2018 連携企画ゴローさんとホールに描くオーバークラスドローイングワークショップを開催。
●【ホール】ホールオープンデーワークショップ等	8月4日(日)「ホールのお仕事を体験!こどもレセ体験(こども1日館長と一緒に開催)」8名参加。「オルゴールを鳴らすカード作り～パチパチ穴あけ、クルクル演奏～」21組参加。「サンキャッチャーづくり体験」81名参加。「和文化再発見!和太鼓体験」32名参加。「マルっと文プラ フェスティバル盆踊り」50名参加。	8月5日(日)「ホールのお仕事を体験!こどもレセ体験」8名参加。「やってみよう!見てみよう!1日館長体験♪」8名参加。「革でつくるオリジナルキーホルダー」37名参加。「こどもチンドン屋さん」27名参加。
●【ホール】みんなで踊ろう東京五輪音頭-2020-	8月12日(月祝)逗子アリーナ。スペインセーリングチーム事前キャンプに合わせて開催された交流会の中で実施。EMPTY CRAFTによる踊りの指導。	—
●【ホール】雅楽楽器体験	1月25日(土)なぎさホール。新春雅楽終了後に開催。31名参加。	—
●各種講座の実施	※前掲:(1)ー②「文化に関する講座の実施」	※前掲:(1)ー②「文化に関する講座の実施」
③文化芸術に触れる機会の少ない人へのアプローチ		(令和元年度実績)
●【ホール】アート便2019 ※前掲	3メニュー(落語、音楽、ダンス×ミュージック)を提供。市立小中学校6校と私立幼稚園1校で開催。	4メニュー(落語、太神楽、音楽、ダンス×ミュージック)を提供。市立小中学校のみで開催。
—	—	9月19日(水)スペインセーリングチーム事前キャンプ交流会 IN 小坪小。翁家勝丸氏による太神楽実演。
●【ホール】ホールオープンデー 0才からのコンサート こどもブリッツ ～小さな小さな吹奏楽～	4月21日(日)なぎさホール、381名来場。未就学児入場可。	4月5日(日)なぎさホール、464名来場。未就学児入場可。
●【ホール】和太鼓グループ彩-sai-アウトリーチ(逗子杜の里)	9月14日(土)逗子杜の郷。敬老会の中で開催。100名参加。コミュニティ助成事業。	—
●【ホール】逗子文化プラザプレゼンツ ファミリーイベント ミュージカル「ピノッキオの冒険」	12月1日(日)。なぎさホール、515名来場。未就学児入場可。	12月16日(日)逗子文化プラザプレゼンツ ファミリーイベント こどもミュージカル「オズの魔法使い」なぎさホール、520名来場。未就学児入場可。
(4)文化資源の活用による地域づくり		
①逗子の歴史的資産、伝統文化の継承と発展		(令和元年度実績)
—	—	未指定の地域の文化遺産に関する社会教育課からの意見交換
●逗子市文化協会による伝統文化教室の開催 ※一部前掲	体験学習施設スマイル「スマイル講座」(小学生～高校生対象)。和楽器(逗子三曲会、全6回)、いけばな(逗葉華道会、全4回)、囲碁(逗子囲碁連盟、全4回)、茶道(はなびら会、全1回)	和楽器(箏、尺八)(逗子三曲会、全6回)、いけばな(逗葉華道会、全4回)、茶道(はなびら会、全1回)
●逗子市文化協会による伝統文化の披露	8月23日(金)逗子マリーナでの「スペインチーム歓迎会」にて茶道お点前を披露。	—
②豊かな自然環境の活用		(令和元年度実績)
●自然の回廊プロジェクト推進事業	個別の回廊ごとのマップをホームページに掲載。「未病×自然の回廊ウォーキング～田越川・逗子海岸回廊」国保健康課と連携して開催。参加者24人。回廊コースや見どころを紹介する「逗子自然の回廊展」を初開催。	個別の回廊ごとに、庁内印刷でマップを作成、配布。「未病×自然の回廊ウォーキング～田越川回廊から池子の森自然公園へ～」国保健康課と連携して開催。
●逗子フィルムコミッション	撮影問合せ件数92件、市内での撮影件数47件。市民エキストラ登録人数154名	撮影問合せ件数126件、市内での撮影件数79件。市民エキストラ登録人数154名。
●社会教育講座 ※前掲	各種講座事業3講座。参加者計172名。	「逗子の歴史と文化遺産『植生学から身近な自然を見る～長柄桜山古墳とその周辺』参加者23名。
③人的資源の発掘と連携		(令和元年度実績)
●逗子アートフェスティバル2019実施を目的とした、逗子アートネットワークの活動 ※前掲	Facebookページ登録者数68名。逗子アートフェスティバル2018終了後一旦解散し、新たにメンバーを募集。市内だけでなく市外、県外からもネットワークに参加し、特にアーティスト人材が増加。	Facebook登録者数134名。
●【ホール】絵本作家山本省三さんと一緒に絵本をつくろう2019 こどものための手作り絵本講座 ※前掲	市内絵本作家 山本省三氏を講師に迎え開催。	市内絵本作家 山本省三氏を講師に迎え開催。

●【ホール】絵本作家山本省三さんと一緒に絵本をつくろう 2019 おとなのための手作り絵本講座 ※前掲	市内絵本作家 山本省三氏を講師に迎え開催。	市内絵本作家 山本省三氏を講師に迎え開催。
●【ホール】逗子市広報大使コンサート&トークショー	6月22日(土) なぎさホール、505名来場。	—
●【ホール】なぎさプラスゾリステンコンサート第15回	12月2日(月) なぎさホール、383名来場。	11月27日(火) なぎさホール、396名来場。
(5) 文化情報の収集と活用		
①情報の収集・発信		(令和元年度実績)
●【ホール】ホール&ギャラリーニュースの発行	ホール独自の広報誌、年4回発行(110,000部/回)。	ホール独自の広報誌、年4回発行(110報誌、年4回発行)
●【ホール】ホームページとSNSの活用	インターネットを利用した自主事業および貸館情報発信。Facebookページの「いいね!」数は562件。(令和2年5月21日現在)	Facebookページの「いいね!」数は500件超。前年度から100件増加(Facebookページは2011年8月開設)。
●【ホール】ホールにおける情報コーナーの設置と活用	近隣他館の催し物や情報誌の配架。	近隣他館の催し物や情報誌の配架。
②情報のネットワークづくり		(令和元年度実績)
●共育ポータルサイト「ナニスル」の運用	講座等の情報掲載の運用を引き続き実施。参加団体数 件	参加団体数601件。
●市民による文化事業への後援、協力 ※前掲	共催1件、協力3件、後援23件 合計27件。★コロナにより2件中止、1件延期	共催1件、協力10件、後援15件 合計26件。
③(仮称)逗子アーカイブスの構築		(令和元年度実績)
●逗子市文化振興基本計画策定・推進会議における検討	2回開催。(開催内容を確認)	2回開催。
●逗子フォト事業	平成29年12月から運用開始。令和2年6月8日現在1,205件。 令和元年7月に運用ポリシーを改正し、営利目的であっても事前申請不要とした。	平成31年2月1日現在1,181枚公開。
(6) 文化振興のための環境づくり		
①行政の文化振興体制の明確化と連携体制の整備		(令和元年度実績)
—	—	文化財保護法対象外の、未指定の有形・無形の地域文化遺産の情報収集等について、社会教育課(文化財所管)から情報提供を受け、意見交換を実施。
●ホール長期改修計画の作成	委託業務にて発注。	—
●ホールにおける改修工事等の実施	4件実施。うち2件は台風被害に伴う緊急対応工事。	2件実施。
●ホール指定管理者に対するモニタリングの実施	毎月実施。	毎月実施。
—	—	逗子アートフェスティバル2018における逗子会館及び逗子銀座コミュニティセンターの活用。
●【ホール】管理職による外部講座受講	「認知症を知る」(神奈川県福祉子どもみらい局主催) サービス課2名が受講。	「トラブルに発展させないクレーム対応術」(神奈川県民ホール主催) 受講
—	—	認知症サポーター養成講座を、ホール事務室常勤職員及び受付パート職員全員が受講。
●【ホール】避難訓練コンサート	9月3日(火) なぎさホール、93名参加。	—
③近隣市町との交流・連携		(令和元年度実績)
●神奈川県立近代美術館葉山館との連携	社会教育講座において、県立近代美術館入門講座全4回を実施。参加者78名(所管:社会教育課)	【ホール】神奈川県立近代美術館葉山館との広報面での連携

施策の柱	(1) 地域文化の担い手の育成
地域の文化は市民が継承し、創造し、発展させるものと捉え、担い手を育成するために、文化への理解・関心の向上と活動への参画を促し、地域文化振興に必要な専門知識を持った市民を増やす。特に、吸収力旺盛な青少年期における文化との接触による次世代の担い手育成を図る。	

個別計画での基本施策と令和元年度の取組みの結果

① 子どもたちの文化創造体験の拡充	
目標	<ul style="list-style-type: none"> ○ 学校教育と連携しながら、子どもたちに対する芸術に触れる機会や文化・芸術教育を充実させます。 ○ 地域において多世代との交流を通じた、地域の文化体験など、地域生活における文化接触を豊かにしていきます。 ○ ホール自主文化事業において創造体験ができる機会を充実させます。
取組みの結果	<ul style="list-style-type: none"> ● 学校と連携して行う「アート便」は、令和元年度は12件を実施し、1,124名が参加した。(コロナの影響により6件が中止)。メニューは落語とダンス×ミュージック、音楽の3つであった。また、3校について、保護者の見学があった。(沼間小落語：7名、池子小落語：10名、逗子小落語8名) ● 平成30年度まで実施した「逗子こども能」は、子どもたちに伝統文化に触れる機会を提供することについて一定の役割を果たしたものと判断し、アート便でも実施していた落語の教室を、新たに「逗子こども落語教室」として開始した。初回とあって募集20名のところ18名の参加であった。発表会も開催し、席を増やして対応する盛況ぶりであった。 ● 未就学児に対しては、聖マリア幼稚園への「アート便」(音楽：ブリッツフィルハーモニックウインズ)やアウトリーチ(盆踊り：EMPTYKRAFT)、かぐのみ幼稚園へのアウトリーチ(盆踊り：同)双葉保育園へのアウトリーチ(和太鼓グループ彩-sai-)等、積極的にアプローチした。 ● 中・高生部活動に対しては、市内中・高吹奏楽部3校へのクリニック(ブリッツフィルハーモニックウインズ)や、逗子開成学園高等学校和太鼓部と和太鼓彩-sai-逗子公演でのコラボレーション等、プロの技術や演奏から学ぶ機会を新たに設けた。 ● 総合的学習に対するアプローチとして、「舞台の技術について知る」を逗子高等学校の総合的学習のプログラムの一つとして行い、ホールならではの知識と技能を活用した。 ● 逗子市文化協会が受託して行った体験学習施設スマイルでの「子ども文化芸術教室(スマイル講座)」の受講者が、第69回逗子市文化祭の「三曲会演奏会」(和楽器)、「諸流いけばな展」に参加し、学んだ成果を発表した。
② 市民のアートリテラシーの向上	
目標	<ul style="list-style-type: none"> ○ 逗子の伝統文化、歴史的資産はもとより、様々な文化に関する教養講座などを実施し、市民の文化に対する興味や知識を向上させます。 ○ 学ぶことと創造すること、市民協働を進めながら、生涯学習と文化振興を連携させ、幅広い視野や包容力ある人材を育みます。 ○ 団塊の世代が地域に戻り、地域文化活動に参画していけるような機会を設定していきます。
取組みの結果	<ul style="list-style-type: none"> ● 「逗子アートフェスティバル2019」は、平成30年度に引き続き市の財政対策により財政的支援が無い中で、逗子アートネットワークの主体的な企画運営により、規模を縮小しながらも、新たなアーティストの参画等内容的な充実を図って開催した。 ● 市民による文化活動への市後援などは、27件となり前年度より増加した。 ● 文化に関する講座は、生涯学習講座事業(市民協働課)、各種講座事業(社会教育課)が行われた。
③ 地域文化振興の担い手育成	
目標	<ul style="list-style-type: none"> ○ 地域において、文化事業の企画や制作、運営を担ったり、専門知識や技能を発揮したり、ボランティアやサポーターで参画したり、地域文化を推進していく人材の育成に取り組みます。 ○ 青少年や若年層の活力を積極的に取り入れます。 ○ 市民、来訪者に関わらず、市内で文化活動を行う人々の参画と参加により、交流のなかで、文化活動を活性化します。

取組みの結果	<ul style="list-style-type: none"> ● 「逗子アートフェスティバル 2019」では、市民企画・自由企画等の公募は行わず、逗子アートネットワークの参加者から企画を立ち上げた。ボランティア活動も同様に、逗子アートネットワークの参加者と、過去のボランティア参加者で行った。 ● 「第 69 回逗子市文化祭」は、平成 30 年度に引き続き市からの財政的支援が無い中自立的に開催され、芸能部門 10 行事、展示部門 8 行事が参加した。広報ずし 10・11 月号に関連記事を掲載し、周知を図った。 ● 若手演奏家シリーズでは、平成 30 年度に引き続き、春・秋 2 回の「逗子コミュニティパーク」に出演をし、地域への存在アピールをするとともに、若手演奏家の自発的な活動を促し、専門技能の発揮につながった。
--------	---

※新型コロナウイルス感染症の影響	<ul style="list-style-type: none"> ● 新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、ホールを臨時休館。(3月4日(水)～6月30日(火)) ● 「アート便」の中止。(2校、授業数6件) ● 「子ども文化芸術教室(スマイル講座)」の中止。(4回、日本舞踊、ダンス、いけばな、美術) ● ホールのボランティアライターに対する「情報発信協力ボランティアスキルアップ講座」の中止。 ● ホールのレセプションistに対する「フォローアップセミナー」の中止。 ● ホールの若手演奏家シリーズ#10「音の饗宴ーソプラノ×ヴァイオリン×ピアノー」の中止。
------------------	--

自己評価と見直すべき点	<p>a. 順調である。 b. 概ね順調である。 c. 順調であるとみなせない。</p> <p>【自己評価】 アウトリーチ活動においては、未就学児へのアウトリーチ、中高生部活動でのプロのアーティストによるクリニックや公演でのコラボレーション、総合的学習への舞台技術プログラムの導入等、ホールの特長を活かした取組みが行われ、文化創造体験の一層の拡充が図られた。特に、メニューの中でも好評を得ていたことをきっかけに始まった逗子子ども落語教室は、逗子子ども能に代わる新たな子どもたちの伝統文化体験として、順調なスタートを切ることができた。</p> <p>「逗子アートフェスティバル 2019」は、引き続き市民主体の企画運営により行われ、新たなアーティストや参加者が加わり、文化の担い手発掘と育成に寄与した。</p> <p>「第 69 回逗子市文化祭」については、財政的支援は行わなかったが、広報支援等を行った。</p> <p>逗子市文化協会による「子ども文化芸術教室(スマイル講座)」は、講座の種類、回数ともに増え、文化協会の活動が外に向けて一層開かれた。更に、同会が主催する逗子市文化祭に受講した子どもたちが参加したことで、世代間でのつながりや理解を深めるきっかけにもなった。</p> <p>【見直すべき点】 逗子アートフェスティバル 2019 では、市民からの企画公募やボランティアの新たな募集が行われず、紙媒体での広報活動も少なくなったこと(広報ずし掲載面の縮小、公式パンフレットの逗子駅前での配布の中止)等から、企画運営を担う逗子アートネットワークのメンバー以外への周知が足りなかった。</p>
-------------	--

<p>総合計画、基幹計画における位置づけと目標</p>	<p>【総合計画実施計画】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 市として特に戦略的・重点的に取り組む「リーディング事業」に、逗子アートフェスティバルが位置付けられている。 ● 目標として「令和4年度までに、逗子アートフェスティバルの参加企画数が30企画になっており、質の向上が図られている。」としている。 <p>【基幹計画】共に学び、共に育つ、共育（きょういく）のまち推進プラン <文化振興事業></p> <ul style="list-style-type: none"> ● 令和元年度における主な事業として「逗子アートフェスティバルを開催する（トリエンナーレ方式による開催）」としている。 ● 目標として「令和4年度までに、逗子アートフェスティバルの参加企画数が30企画になっており、質の向上が図られている。」としている。 <p><生涯学習講座事業></p> <ul style="list-style-type: none"> ● 令和元年度における主な事業として「生涯学習の各種講座を開設する。ずし楽習塾を開設する」としている。 ● 目標として「令和4年度までに、生涯学習の各種講座が、130講座開設されている」としている。
-----------------------------	---

<p>委員会の評価</p>	<p>a. 順調である。 b. 概ね順調である。 c. 順調であるとみなせない。</p> <p>アウトリーチをはじめとするホールの各種事業や「逗子アートフェスティバル2019」の実施を通じて、子どもたちの創造体験の拡充、市民のアートリテラシーの向上に向けて、着実に推進されていることが認められる。</p> <p>アウトリーチ活動については、未就学児から中高生まで幅広い層に対して実施されており、将来の担い手の育成に資している。「逗子子ども能」から「逗子子ども落語教室」への移行は、特にコミュニケーション教育という視点も含めて期待したい。また今後のために、10年以上続いてきた「逗子子ども能」の記録を整理し、その成果を明確化することが望まれる。</p> <p>「逗子アートフェスティバル2019」については、市からの財政的支援の無い中で、引き続き逗子アートネットワークが主体的に企画・運営し、新たなアーティストや参加者も加わって開催したことを評価したい。逗子アートネットワークにおいては、地域文化の担い手の育成と参加者の意欲の向上が図られたと思われる。</p> <p>逗子市文化協会についても、市からの財政的支援の無い中で、自立的に「逗子市文化祭」を開催したことは、市民の創作意欲や鑑賞行動への欲求の高さを窺わせるものであった。また受託事業「子ども文化芸術教室（スマイル講座）」など、逗子市文化協会が市民に向けて活動を開いていこうとする意欲や熱意が感じられる。当市全体の文化度向上のために、市においては財政的支援を含め、継続を可能にさせる環境を整えることが求められる。</p>
---------------	---

施策の柱	(2) 市民文化活動の活性化
市民の文化活動は、心の豊かさや充足感を得るだけでなく、活力に満ちた社会や個性豊かな地域の形成など、様々な形で地域などにも還元されるものと捉え、市民個人や団体それぞれの活動を高め、広げるとともに、文化を通じた公益的な市民活動の支援を図る。	

個別計画での基本施策と令和元年度の事業概要

① 市民文化活動への支援の拡充

目標	<ul style="list-style-type: none"> ○ 市民に文化活動のための場と機会（時間）を提供し、市民と行政の役割を明確にした上で、市民文化活動の活性化のための協働を進めます。 ○ 文化活動をしていく上での相談や助言を行う仕組みや、支援や協働による活動の実現や拡大につながる仕組みを整えていきます。 ○ 文化事業の企画運営について、市民が専門的知識や技術の習得が可能となるよう支援します。 ○ 活動の目標や励みになる事業及び専門性をより高めていくための機会を設けるなど、支援を行います。
取り組みの結果	<ul style="list-style-type: none"> ● ホールが逗子高等学校の総合的学習のプログラムの一つとして行った「舞台の仕事について知る」は、平成 30 年度の「イベント企画講座」が、1 名と参加者が少なかったことからやり方を見直し、ホールにおける舞台の仕事について、知識を深める内容と、音響について体験を交えた講座を実施した。18 名の生徒が参加し、舞台を使った文化活動だけでなく、舞台運営の仕事に対する興味関心を図り、将来的な文化活動の支援につながる試みとなった。 ● 毎年人気の「手づくり絵本講座」（中学生以上対象）は応募開始日に半数が埋まり、最終的に定員を超える応募があったが、全て受け入れ、全 3 回の講座が行われた。講師の指導のもと、ストーリーや挿絵の制作から製本まで一貫して参加者の手により行われ、最終回は講座内でのミニ発表会を実施した。

② 市民による市民のための文化振興の仕組みづくり

目標	<ul style="list-style-type: none"> ○ 個人や既存の団体との連携を図りながら、プラットフォームとなる中間支援組織の育成や、文化 NPO の支援などにも取り組みます。 ○ 市民自らが企画・参加し、地域文化を振興し、地域を活性化していく仕組みづくりを進めます。 ○ 世代間交流ができるような文化事業を実施します。
取り組みの結果	<ul style="list-style-type: none"> ● 「逗子アートフェスティバル」の企画運営を行う団体である逗子アートネットワークには、68 名の参加があった。 ● 逗子アートネットワークの組織について、「逗子アートフェスティバル 2018」の終了後一旦解散という形を取り、新たにメンバーを募った結果、新しいメンバーが半数以上となり、特に「逗子アートフェスティバル 2018」の様子を見て参加を希望するアーティスト等が、企画プランを持って集まった。 ● 逗子アートネットワークの運営について、引き続きフラットな関係を重視し、出席者全員の合意でコンセプトや方向性を決定することを基本としたが、テーマの決定に時間を要し、広報活動が遅れる等した。

③ 市民参画・協働型事業の充実

目標	<ul style="list-style-type: none"> ○ 事業の企画案、運営スタッフの市民公募などにより、市民参画・参加を促進します。 ○ 市民の企画力、運営力をより一層高めていく支援を行います。 ○ 市民主導型のホール自主文化事業を積極的に実施し、事業の充実を図ります。
取り組みの結果	<ul style="list-style-type: none"> ● 「逗子アートフェスティバル 2019」は、平成 25 年度（2013 年）のプレアートフェスティバル以降 7 回目となった。 ● 逗子アートネットワークの全員ミーティングは全 13 回と、平成 30 年度とほぼ同ペースで行われ、市は全てのミーティングに出席した。 ● ホールの「市民企画事業」では、2 件の公演を実施した。 ● ホールレセプション（Re-Ce）活動では、22 名の参加者が主に自主文化事業にレセプションとして参加し、その技術を磨いている。

<p>※新型コロナウイルス感染症の影響</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 市民企画事業「第23回 癒しのクラシックコンサート オーケストラ演奏会」の中止。 ● 「トモイクフェスティバル」の中止。
-------------------------	---

<p>自己評価と見直すべき点</p>	<p>a. 順調である。 b. 概ね順調である。 c. 順調であるとみなせない。</p>
	<p>【自己評価】 逗子高等学校での総合的学習のプログラム「舞台技術体験講座」は、平成30年度の「イベント企画支援講座」での反省を活かし、開催の仕方や対象者の見直しを行った結果であり、将来的な市民文化活動の活性化につながる取組みとなった。 逗子アートネットワークは、平成30年度の組織を一旦解散し新たなメンバーを募る、ということ全員協議により決定した。市民による組織のあり方を市民が主体性を持って選択し実施した結果、アートに関わる様々なスキルを持ったメンバーを集めることができた。市は全体ミーティング等に参加することで、活動をサポートした。 手づくり絵本講座や、ホールレセプション（Re-Ce）活動等、長く続く取組みについても引き続き活発に実施された。</p> <p>【見直すべき点】 ホールの市民企画事業3公演のうち「初春 バレエ祝賀コンサート」については、定員に対し45.1%の入場率であり、企画のあり方や広報等の仕方等、主催者へのサポートを検討必要がある。</p>

<p>委員会の評価</p>	<p>a. 順調である。 b. 概ね順調である。 c. 順調であるとみなせない。</p>
	<p>ホールの市民文化活動への支援・拡充のために実施された「舞台技術体験講座」については、前年度の反省を活かし、内容を具体化したことが評価できる。このほか「手作り絵本講座」や、市民参画・協働型授業の充実を図るためのホールレセプション（Re-Ce）活動の取り組み等、体験型のプログラムを推進していくことの意義は認められるが、ホールの利用に関する市民のニーズ把握や、広報等に関する課題の早期解決が望まれる。</p> <p>「逗子アートフェスティバル2019」については、逗子アートネットワークが主体的に企画運営を継続し、より積極的な文化活動が推進できたことは評価できる。参加を希望する新規メンバーが大幅に増えたこと、アーティストから企画プランが持ち込まれたことは、本事業の発展の可能性を示唆するものと思われる。一方で、市民からの企画の公募が間に合わなかったことは、一般市民への参加と連帯を促す視点が弱いように感じられる。市においては、適切な財政措置や広報等での協力をを行い、事業の継続・拡充を図ってもらいたい。</p>

施策の柱	(3) 文化芸術に接する機会の拡充
<p>条例で定める、文化芸術を創造し、享受することは市民の権利であることを実現するため、すべての市民が文化芸術に触れることのできる機会を提供するように努める。特に、文化事業を企画したり、運営に参画したり、支援する機会や、文化芸術に触れることが困難な市民が気軽に接する機会の拡充を図る。</p>	

個別計画での基本施策と令和元年度の事業概要	
① 鑑賞機会の拡充	
目標	<ul style="list-style-type: none"> ○ 市民ニーズにあった多彩な鑑賞型事業を実施します。 ○ 市民の企画による事業を募集、協働にて実施します。
取組みの結果	<ul style="list-style-type: none"> ● 8件のうち、入場者数500名を超えた公演は2件であった。ジャンル別内訳は、音楽関係3、伝統文化・古典芸能3、ダンス2。 12月14日(土)「なぎさジャズコレクション山下洋輔 JazzLive」511名 2月8日(土)「沖仁 con 木村大 情熱のギターコンサート」514名 上記の公演アンケート結果は満足度88.9%となった。 ● 平成30年度に出演者都合により公演中止となった「なぎさジャズコレクション山下洋輔」が、チケット完売となった。一方、入場率が低迷した事業が、いずれも初の試みとしての公演であった2件(1月6日(月)「初春 バレエ祝賀コンサート」定員に対して45.1%、1月25日(土)「新春雅楽」定員に対して43.1%であった。 ● 平日の昼間の活用として「ウィークデーマチネ 神奈川フィルハーモニー管弦楽団アンサンブル」が開催されたが、定員に対して57.6%の観客動員であった。
② 体験や参加、参画機会の充実	
目標	<ul style="list-style-type: none"> ○ ホールにおいて、鑑賞型事業の実施に合わせ、そのテーマに沿った各種講座やワークショップを実施します。 ○ 市内公共施設などにおいて、各種講座事業を実施します。
取組みの結果	<ul style="list-style-type: none"> ● 逗子市が、東京2020オリンピック競技大会のセーリング競技におけるスペインチームの事前キャンプ地となっていることから開催された交流会「ようこそスペインセーリングチーム みんなで踊ろう東京五輪音頭-2020-」では、2年連続でホール公演を行い、アート便の講師でもあるEMPTYKRAFTのメンバーが、会場近くの第一運動公園プールでの参加者呼び込みから、ライブパフォーマンス、東京五輪音頭の参加者へのレクチャーを担い、会場を大いに盛り上げた。これに先立ち、交流会の会場となった市立体育館の指定管理者(逗子市体育協会)と市との3者による協議を行い調整するなど、ホールの他施設との協力体制も見られた。 ● 「ホールオープンデー」でのワークショップのうち定員を超えて人気があったのは「ホールのお仕事を体験!こどもレセ体験」「和文化再発見!和太鼓体験」であった。「こどもレセ体験」は同日開催された「0才からのコンサートこどもブリッツ~小さな小さな吹奏楽~」の鑑賞チケット付きで、同コンサートで実際にレセプションと一緒にチケットもぎりを体験する等した。「和太鼓体験」は10月に公演を控えた和太鼓グループ彩-sai-が講師を務め、子どもだけでなく親子の参加もある等、好評を博した。 ● 「ホールオープンデー」では、文化プラザ全体の盛り上げを図るため、フェスティバルパークでの「マルツと文プラ フェスティバル盆踊り」や、こどもブリッツの奏者がミニ演奏会を行う「図書館おはなし会」等、文化プラザ内他施設(交流センター、図書館)と連携した。
③ 文化芸術に触れる機会の少ない人へのアプローチ	
目標	<ul style="list-style-type: none"> ○ 自主文化事業の内容に合わせて対象や方法を工夫しながら、PR活動を行います。 ○ 自主文化事業の実施場所をホールに限定せず、積極的にアウトリーチ事業として実施することにより、ホールに来館できない方へも文化・芸術を広めていきます。
取組	<ul style="list-style-type: none"> ● アウトリーチ(「アート便」)では3メニュー(落語、音楽、ダンス×ミュージック)を提供した。音楽の講師「ブリッツフィルハーモニックウインズ」、ダンス×ミュージックの講師「EMPTYKRAFT」は、ともに

みの結果	<p>アート便講師とホール公演を平成 30 年度に引き続き行っている。同じアーティストによる継続した取組みにより、参加者や観客の親しみにつながり、アート便をきっかけに、ホールへの関心を高めることにつながった。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 「ファミリーミュージカル＜ピノッキオの冒険＞」は、平成 30 年度に初めて行い好評を得たミュージカルの公演で、令和元年度もほぼ満席（515 名）、最終的な券売数は 547 枚であった。未就学児向けの公演は当日券の売上が多い傾向にあるが、今回は、昨年の「オズの魔法使い」の影響と、前売券と当日券で異なる価格設定をしたことで、当日券が通常の 2 割程度にとどまった。 ● 保育園や特別養護老人ホームでの、和太鼓グループ彩-sai-のアウトリーチは、入所者とその家族も多く集まり、大変好評だった。
------	---

※新型コロナウイルス感染症の影響	<ul style="list-style-type: none"> ● アート便の中止（2 校、授業数 6 件）。
------------------	---

自己評価と見直すべき点	<p>a. 順調である。 b. 概ね順調である。 c. 順調であるとみなせない。</p> <p>【自己評価】 EMPTYKRAFT によるスペインセーリングチームとの交流会におけるパフォーマンスをはじめとする活動は、2 年連続での鑑賞型事業での公演や、アート便で講師を務める等、ホールがアーティストとの良好な関係を築き、アーティストに対する市民への周知や親しみが広がっていることを踏まえての結果であった。 同様に、和太鼓グループ彩-sai-による「ホールオープンデー」での親子を対象にした和太鼓体験、逗子開成学園和太鼓部へのレクチャーとコラボレーション、ホールでの本公演という流れも、先にアーティスト側から市民へ働きかけたことで、ホール公演に対する関心を高め、97.2%（502 名）という高い入場率につながった。 幼稚園や保育園、特別養護老人ホームでアウトリーチを実施し、ホールに来ることが難しい方へのアプローチを継続することができた。</p> <p>【見直すべき点】 入場率が低かった 2 公演については、内容の見直しや広報のあり方等について検討する必要がある。 平日昼間の活用としての「ウィークデーマチネ」が低い入場率に留まったことについて、観客動員の難しい時期や時間帯をどのように活用するかホール運営全体からの検討を引き続き指定管理者に求めていく。</p>
-------------	---

総合計画、基幹計画における位置づけと目標	<p>【総合計画実施計画】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 目標として「令和 4 年度までに、文化プラザホールにおいて、質の高い自主文化事業が実施され、ホール自主事業の入場者アンケートの満足度が 90 パーセントを超えている。 ● 文化プラザホールの入場者（観客）が年 10 万人以上になっている。」としている。 <p>【基幹計画】 共に学び、共に育つ、共育（きょういく）のまち推進プラン ＜アウトリーチ活動推進事業＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 令和元年度における主な事業として「逗子文化プラザホール指定管理者によるアウトリーチ事業を実施する。」としている。 ● 目標として「令和 4 年度までにアウトリーチ事業の訪問施設が、学校施設だけでなく高齢者福祉施設などでも実施している」としている。
----------------------	--

委員会の評価	a. 順調である。 b. 概ね順調である。 c. 順調であるとみなせない。
	<p>ホールの鑑賞型事業について、新規事業に関しては入場率だけで評価せず、満足度や広報のあり方等、総合的に評価すべきである。また、雅楽などあまり馴染みのない催しは、事前にレクチャーやワークショップ等を実施して「心のバリア」を小さくする活動も検討されたい。</p> <p>また、鑑賞型事業のテーマに沿った各種講座やワークショップが実施されたことは、文化芸術に接する機会の拡充につながるものとして高く評価できる。また、他の施設との協力・連携が見られたことは、施策を補強し後押しする要因として意義深く、特に保育園や特別養護老人ホームの方々に向けたアウトリーチの実施は、ホールに来館できない方にも文化芸術に接する機会を提供し、今後につながる成果と言える。</p> <p>「東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会」に係るスペインセーリングチームとの交流会事業は、アーティスト (EMPTYKRAFT) による積極的な働きかけや逗子市体育協会との連携により、アートに対する市民の関心や親しみの広がりも見られ、今後の文化芸術振興の一つのモデルとして定着していくことを期待したい。</p>

施策の柱	(4) 文化資源の活用による地域づくり
市内に存在する様々な歴史的資産や伝統文化、青い海や緑豊かな自然環境といった環境、逗子ゆかりの作家や芸術家、各分野の専門性や学識経験を持った市民をはじめとする全ての市民を逗子の文化資源と捉え、逗子の持つ文化の力を発揮して、個性と活力ある地域づくりを進めていく。	

個別計画での基本施策と令和元年度の事業概要	
① 逗子の歴史的資産、伝統文化の継承と発展	
目標	<ul style="list-style-type: none"> ○ 市内に残る伝統文化などの継承を支援します。 ○ 継承すべき文化の中から、どのように継承するかなど、協働により検証していきます。
取り組みの結果	<ul style="list-style-type: none"> ● 逗子市文化協会受託して行った、体験学習施設スマイルの「子ども文化芸術教室（スマイル教室）」では、全4講座のうち、2講座について伝統文化の教室を実施した。 日本舞踏体験講座 全3回、小・中学生対象。 いけばな講座 全4回、小・中学生対象 ● 郷土資料館の今後の活用について、社会教育課、緑政課、文化スポーツ課で情報共有を図った。
② 豊かな自然環境の活用	
目標	<ul style="list-style-type: none"> ○ 逗子の自然環境についての学習・保全・啓発につながる文化活動を推進します。 ○ 様々な映像作品のロケ地として利用される逗子を、より一層発信していくため、フィルムコミッション事業やロケ地観光などを促進していきます。 ○ 自然環境を活かした文化活動を推進します。
取り組みの結果	<ul style="list-style-type: none"> ● 平成30年度に続き、案内板設置工事及び回廊マップ増刷に係る経費を予算化しなかったが、平成30年度に作成した全体マップを補完する個別の回廊ごとのマップをホームページに掲載し、広く周知した。 ● 国保健康課と協働で「未病×自然の回廊ウォーキング～田越川・逗子海岸回廊」を実施した。参加者24名。 ● 新たな取り組みとして、回廊コースや見どころを紹介する「逗子自然の回廊展」を初開催した。 ● 「逗子フィルムコミッション」は、撮影問い合わせ対等を引き続き実施した。ウェブTVを中心に、全国・地元テレビ局による番組撮影や、県の3033運動啓蒙のための撮影等に協力した。逗子広報大使の石原良純氏が出演する番組では、市役所も撮影場所として協力した。
③ 人的資源の発掘と連携	
目標	<ul style="list-style-type: none"> ○ 地域に根ざした様々な分野のアーティストや専門家を発掘します。 ○ 様々な人的資源をつなぐネットワークづくりを進めます。
取り組みの結果	<ul style="list-style-type: none"> ● 逗子アートネットワークには「逗子アートフェスティバル2019」の実施を目的とした平成30年度に続き、市内だけでなく市外、県外からも参加者があり、様々な人的資源のつながりを生んだ。 ● 「手づくり絵本講座」は、引き続き逗子在住の絵本作家山本省三氏が講師を務めた。山本氏には、「手づくり絵本講座」の前身である「手づくり絵本コンクール」の初回（平成28年度）から関わっていただいている。 ● 「逗子市広報大使コンサート&トークショー」は、平成30年10月に、逗子出身の双子デュオ山田姉妹、逗子市在住のプロスキーヤー・登山家の三浦豪太氏、逗子市出身の石原良純氏が任命されたことを受けて、シティ・プロモーションの一環として行われた。

※新型コロナウイルス感染症の影響	無し
------------------	----

自己評価と見直すべき点	a. 順調である。 b. 概ね順調である。 c. 順調であるとみなせない。
	<p>【自己評価】 逗子市文化協会による「子ども文化芸術教室（スマイル講座）」の継続と拡大は、協会内部に活動が留まりがちだった同会が、外に向けて活動範囲を広げ、情報発信に努めた結果であった。 自然の回廊プロジェクトについては、組織横断的な取組みとして「未病×自然の回廊ウォーキング」（経済観光課、国保健康課）を平成30年度に引き続き実施し、「逗子自然の回廊展」を新たに開催する等、予算の無い中でも市民への周知につながる取組みを行った。 逗子アートネットワークには、30年度に引き続き市外、県外からの参加者があり、様々な人的資源のつながりを生んだ。</p> <hr/> <p>【見直すべき点】 文化財の範疇では保護等の対象となっていない地域の文化資産については、関係課での課題共有は引き続き行っているが、具体的な取組みには至っていない。</p>

総合計画、基幹計画における位置づけと目標	<p>【総合計画実施計画】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 市として特に戦略的・重点的に取り組む「リーディング事業」に、自然の回廊プロジェクトが位置付けられている。 ● 目標として「令和4年度までに、道標や説明板の設置済みコースが100%となっている」としている。
----------------------	--

委員会の評価	a. 順調である。 b. 概ね順調である。 c. 順調であるとみなせない。
	<p>文化資源の活用による地域づくりのために、逗子ゆかりの人材を起用し、逗子市の魅力を発信する一方で、逗子アートネットワークとその活動が起爆剤となって、市内外の人的資源の発掘や連携が推進されていることは評価できる。</p> <p>逗子市文化協会による「子ども文化芸術教室」（スマイル講座）における展開について、社会に開かれた文化協会のあり方として高く評価したい。今後、更にアウトリーチ等につながっていくことを期待したい。</p> <p>自然の回廊プロジェクトについては、自然の回廊マップのホームページへの掲載、国保健康課との協働によるウォーキングイベントの実施、自然の回廊を紹介する初めての展覧会の開催等、逗子市の文化資源を知る機会を提供する場として、今後も継続して行われることが望ましい。</p> <p>文化財の範疇は、国においても見解が変わりつつある。そのような中、地域における文化資源については、活用のあり方を関係所管で検討する必要がある。特に、郷土資料館の廃止を受けて、今後の文化財の収納、展示施設の検討を求めたい。また建物の活用については、組織横断的な取組みを具体化（ワーキングチーム等）して関係所管の連携を強化するとともに、市民団体等の協力も得て行うことが望まれる。こうした動きが、庁内連携と市民協働による施策推進のモデルの構築につながるとうよい。</p>

施策の柱	(5) 文化情報の収集と活用
<p>情報による文化の活性化を目指し、市民だれでもが容易に市内・市外の文化情報を手に入れることができるような情報流通の仕組みを構築し、新しい情報メディアへの対応を図る。また、逗子の文化資源に関する情報として、文字情報だけでなく映像や音源などを集積して、活用できる仕組みを検討する。</p>	

個別計画での基本施策と令和元年度の事業概要	
① 情報の収集・発信	
目標	<ul style="list-style-type: none"> ○ 他市の文化施設での催しなどの情報をホール及び市民交流センターでも手軽に取得できるよう情報の収集に努めます。 ○ 各メディアに積極的に情報発信を行います。 ○ 新しいメディアを活用した情報提供の検討を行います。
取り組みの結果	<ul style="list-style-type: none"> ● 年間4回、各11万部のホール&ギャラリーニュースを発行した。催事情報のほか「Close Up」として、出演者のインタビュー記事を掲載するスペースを設け、読者により興味を持ってもらえるような紙面づくりに注力した。 ● ホール自主事業について、広報ずし・子育てわくわくメールマガジン・ポータルサイト「えがお」(市)のほか、マグカルカレンダー(県情報誌)、イベントバンク(情報配信サイト)からも情報発信を行った。 ● ホールに近隣他館の催し物や情報誌を配架した。 ● 市役所のホール用ラック、市内掲示板、PR-BOX、市民交流センターラックの活用で情報発信をした。 ● 「逗子・葉山に暮らす子育て世代のサイト『海山時間』～」を新規広報ツールとして情報掲載を行った。 ● ホールの公式ウェブサイトを更新し、全頁をスマートフォン等のモバイル端末に自動的に対応する仕組みを取り入れた。 ● 貸館の販促用にホールのパンフレットとチラシを作成した。
② 情報のネットワークづくり	
目標	<ul style="list-style-type: none"> ○ 国際的な文化交流なども視野に入れ、近隣市町などの公共ホール、劇場、美術館、アートイベントなどとの連携を模索します。 ○ 市内の文化活動団体の交流支援をしていきます。
取り組みの結果	<p>共有ポータルサイト「ナニスル」を引き続き運用した。平成31年度末現在参加団体数665件(平成30年度601件)。</p>
③ (仮称) 逗子アーカイブスの構築	
目標	<ul style="list-style-type: none"> ○ 点在する文化資源情報の収集・整理を進めるための基盤づくり(収集・整理に必要な知識や情報の蓄積など)を、市民と協働で行います。 ○ 文化資源情報の収集・整理の方法について検討します。 ○ 文化資源情報を整理し、将来的にはデジタル化、アーカイブ化により、市民が活用しやすい環境づくりにつなげます。
取り組みの結果	<ul style="list-style-type: none"> ● (仮称) 逗子アーカイブスは、逗子市文化振興基本計画策定・推進会議で検討し、平成29年12月から運用の逗子フォト事業(所管課:企画課)と、将来的に連動する形で、引き続き検討していくこととした。 ● 逗子フォト事業の写真公開枚数は、令和2年6月8日現在1,205件。 ● 令和元年7月より、逗子フォトの利用を拡大するため、運用ポリシーを変更し、営利目的利用に係る事前の申請を不要とした。 ● 10月に開催した「逗子フォト展 懐かしい、新しい カラーでよみがえる逗子の昭和」では、新技術によ

	り白黒写真をカラー化して比較展示するという内容で好評を博した。写真は、市民主催の事業に貸し出されたほか、市主催の「逗子市スポーツの祭典」でも展示された。
--	--

※新型コロナウイルス感染症の影響	無し
------------------	----

自己評価と見直すべき点	a. 順調である。 b. 概ね順調である。 c. 順調であるとみなせない。
	<p>【自己評価】 ホールの広報活動について、貸館販促用のパンフレットとチラシの更新は、開館後始めて行ったもので、今後の貸館利用の拡大につながる取組みであった。 また、公式ウェブサイトのリニューアルとスマートフォン等のモバイル端末対応について、長く要望されていたものが実現し、サイトの利便性向上につながった。 逗子フォト事業において、事前申請不要で営利目的利用が可能ないように運用ポリシーの見直しを行ったことは、情報活用の利便性向上につながった。 逗子フォト展「懐かしい、新しい カラー写真でよみがえる逗子の昭和展」では、白黒写真のカラー化により、昔の逗子を思い出しやすい、懐かしいという意見が市民から寄せられ、写真アーカイブの新たな活用の仕方を示すことができた。</p> <hr/> <p>【見直すべき点】 「(仮称) 逗子アーカイブス」について、逗子フォト事業との将来的な連動という形で検討することとなっているが、具体的な動きには至っていない。</p>

総合計画、基幹計画における位置づけと目標	<p>【総合計画実施計画】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 市として特に戦略的・重点的に取り組む「リーディング事業」に、共育ネットワーク構築事業が位置付けられている。 ● 目標として「令和4年度までに、子どもを対象にした『共育』の講座に参加する子どもが年間延べ2,000人になっている」「『共育』に関するポータルサイトに参加している団体が200団体になっている」「生涯学習グループ・サークルの届出(登録)が250件になっている」「生涯学習関連情報の窓口が一本化されている」としている。 <p>【基幹計画】 共に学び、共に育つ、共育(きょういく)のまち推進プラン <共育ネットワーク構築事業></p> <ul style="list-style-type: none"> ● 令和元年度における主な事業として「共育ネットワークシステムを運営する」「子ども対象講座事業を実施する。(立ち上げ、運営)」としている。 ● 目標として「令和4年度までに、子どもを対象にした『共育』の講座に参加する子どもが年間延べ2,000人になっている。
----------------------	--

委員会の評価	a. 順調である。 b. 概ね順調である。 c. 順調であるとみなせない。
	<p>文化情報の発信については、多様なメディアを使用し、様々な層へ積極的に発信できている。文化情報の収集と活用は、市民へのサービスの一環として重要であり、特にホールの情報発信（ホール&ギャラリーニュースの発行、ウェブサイト改善と催事情報の発信等）には一定の努力が見られ、評価したい。ポータルサイトを運用した情報ネットワークの構築については、スペインセーリングチームとの交流事業の成果を活かす等、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会を意識した国際的な視点からの工夫があってもよかった。今後に期待したい。</p> <p>一方で、埋もれた文化資源を収集し、整理することを目指す「(仮称) 逗子アーカイブス」については、基盤づくりが遅れている。「逗子フォト事業」との関係も含めた全体的なビジョンの策定と長期的な計画をスピード感を持って検討するとともに、関係所管が緊密に連携・協働し、中心となる活動組織を設置して、具体的な取り組みへと前進することが期待される。</p> <p>そのような中「逗子フォト展 懐かしい、新しい カラーでよみがえる逗子の昭和」が開催されたことは評価したい。このような活動が少しずつ積み重ねられていくことが望まれる。</p>

施策の柱	(6) 文化振興のための環境づくり
近隣市町などとの連携を視野に入れ、行政における推進体制の整備を行うとともに、ホールをはじめとする既存の施設の維持管理に努め、市民による自主的かつ主体的な文化活動が行える環境づくりを目指す。	

個別計画での基本施策と平成 29 年度の事業概要	
① 行政の文化振興体制の明確化と連携体制の整備	
目 標	<ul style="list-style-type: none"> ○ 文化振興所管課を中心として、関係部署との協力・連携を強化します。 ○ 文化を軸とした、行政の一体的、組織横断的な推進体制の確立を目指します。
取 組 みの 結 果	<ul style="list-style-type: none"> ● 郷土資料館の今後の活用について、社会教育課、緑政課、文化スポーツ課で情報共有を図った。
② 施設・設備の充実など	
目 標	<ul style="list-style-type: none"> ○ ホールの管理運営について、多くの市民の意見を取り入れながら、改善を図ります。 ○ バリアフリーやユニバーサル・デザインなど、誰もが利用しやすい環境づくりのため、施設や設備の計画的な修繕・改修に努めます。 ○ まちなかに点在する空きスペースや休眠中の市の施設などの情報収集・発信に努めます。
取 組 みの 結 果	<ul style="list-style-type: none"> ● ホールの平成 30 年度の貸館利用者満足度は「とても満足」「満足」を合わせて 88.2%であった。 ● ホールの中長期的改修計画に基づき工事等を行った。 逗子文化プラザホール吸収冷温水機 (R-2) 分解整備工事 さざなみホールピアノオーバーホール等業務委託 (ヤマハグランドピアノ) なぎさホール・さざなみホールのプロジェクター ● 新たに、ホール・図書館棟長期改修計画を作成した。 ● 台風による屋上防水シート破損に対応する緊急工事 (ホール・図書館棟屋上防水改修工事 緊急対応のための工事とその後の本工事 2件) と、雨漏り対応のための工事 (逗子文化プラザホール・図書館棟雨漏り補修工事 1件) を実施した。 ● ホール指定管理者に対するモニタリングを毎月実施した。 ● ホール管理職職員がインクルーシブ社会と公立文化施設の取組みに関する外部講座を受講した。
③ 近隣市町との交流・連携	
目 標	<ul style="list-style-type: none"> ○ 文化プラザが地域の文化活動、創造的活動の拠点となり、他の近隣市町との交流・連携を進めます。
取 組 みの 結 果	<ul style="list-style-type: none"> ● 社会教育講座「近代美術館入門講座」を実施 (所管課：社会教育課)。 神奈川県立近代美術館葉山館の学芸員を講師に、企画展に合わせた内容の講座を実施した。全 3 回。参加者 78 名会場は、交流センター会議室や市役所会議室を使用した。

※新型コロナウイルス感染症の影響	<ul style="list-style-type: none"> ● 文化プラザホールの臨時休館（3月4日（火）から6月30日（火）まで）令和元年度中の貸館キャンセル数 302 件、還付件数 173 件。
------------------	---

自己評価と見直すべき点	<p>a. 順調である。 b. 概ね順調である。 c. 順調であるとみなせない。</p> <p>【自己評価】 連携体制の整備については、郷土資料館の今後の活用について、関係3課での情報共有を引き続き進めていく。 ホールの運営については、貸館利用者満足度は微減したが引き続き高水準を保った。 ホールの維持管理については、ヤマハグランドピアノのオーバーホールや、利用者から要望が多かったプロジェクターの更新を実施した。また、台風被害に伴う屋上防水改修工事や雨漏り補修工事等、緊急の課題に適切に対応した。</p> <p>【見直すべき点】 近隣市町との交流・連携については、県立近代美術館葉山との連携は進んでいるが、それ以外の市町とは進んでおらず、具体的な働きかけが必要である。</p>
-------------	--

総合計画、基幹計画における位置づけと目標	<p>【総合計画実施計画】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 目標として「2022年度（平成34年度）までに、ホール貸館利用者アンケートによる満足度で「良い」が75パーセントになっている。」としている。 <p>【基幹計画】 共に学び、共に育つ、共育（きょういく）のまち推進プラン <文化プラザホールの維持管理事業></p> <ul style="list-style-type: none"> ● 令和元年度における主な事業として「中長期的改修計画に基づいた施設の改修修繕を実施する。」としている。 ● 目標として「令和4年度までに、中長期的改修計画に基づいた施設の改修工事を実施する。」としている。
----------------------	--

委員会の評価	<p>a. 順調である。 b. 概ね順調である。 c. 順調であるとみなせない。</p> <p>文化振興のための環境づくりについては、平成30年度の評価においても指摘したが、文化振興施策の関係所管間の組織横断的な協力・連携が強く求められる。更に、改正文化芸術基本法が求める、より組織的・継続的な文化振興の体制づくりが望まれる。</p> <p>文化プラザホールについては、利用者の満足度は高く維持されている。引き続き文化活動の拠点として、バリアフリー化やユニバーサル・デザインの導入等に配慮した環境づくりが期待される。また、近隣市町との交流・連携の拠点として、更なる活動を進めてもらいたい。</p> <p>市民交流センターや市役所会議室を使用し、社会教育課によって神奈川県立近代美術館葉山館の学芸員による「近代美術館入門講座」が実施されたことは評価できる。</p>
--------	--

参考資料

1. 逗子文化プラザホール 令和元年度自主文化事業一覧

	事業名	開催形式	実施日時	発売月日	会場	対象／定員	チケット料金	入場者数(入場率)	備考 〔チケット販売枚数(前月末時点) または申し込み人数〕
まちづくり	第29回逗子コミュニティパーク ～大人の休日～との連携 若手演奏家の出演	—	5月18日(土) 12:00出演	—	亀岡八幡宮	—	無料	—	*主催: 逗子コミュニティパーク実行委員会 *出演者:Piacere(フルート四重奏)
トモイク	第2回敬老寄席 駅前寄席 in 逗子文化プラザホール	共催	5月22日(水) 13:00開演	4月5日(金)	なぎさホール	逗子在住 65才以上 /500名	無料	461名 (92.2%)	*主催: NPO法人逗子葉山鎌倉駅前寄席 *事前に招待券を先着順で配布 [ホールでは290枚配布終了]
まちづくり	逗子子ども落語教室	主催	教室: 6月24日(月) 7月10日(水) 8月28日(水) 9月25日(水) 10月30日(水) 発表会: 11月16日(土)	4月1日(月)	さざなみホール、 なぎさホール	市内 小中学生 /20名	参加費 7,000円	18名 (90.0%)	*お稽古全5回
まちづくり	逗子子ども落語教室発表会		11月16日(土)	—	さざなみホール	どなたでも/100名	無料	131名 (131.0%)	*会場内に146席並べていたため、定員を超えて対応
地域資源	逗子市広報大使 コンサート&トークショー	主催	6月22日(土) 14:00開演	4月7日(日)	なぎさホール	一般/ 554名	全席自由 一般1,000円 高校生以下500円	505名 (91.2%)	[招待8名含む] 最終販売数:528枚(一般512枚、高校生以下16枚) *未就学児入場不可
地域資源	若手演奏家シリーズ#9 Piacere —フルート四重奏—	主催	7月6日(土) 14:00開演	4月7日(日)	さざなみホール	一般/130名	全席自由 1,000円	112名 (86.2%)	[招待3名含む] 最終販売数:ホール64枚(出演者50枚) *未就学児入場不可
トモイク	絵本作家山本省三さんと 一緒に絵本をつくろう2019 こどものための手作り絵本講座 おとなのための手作り絵本講座	主催	こども:7月21日(日) 22日(月) 25日(木) 30日(火) おとな: 11月24日(日) 12月8日(日) 15日(日)	こども: 5月12日(日) おとな: 未定	さざなみホール 市民交流センター	小学生以上 /70名 中学生以上 /35名	参加費 2,000円	こども:70名(100%) おとな:36名 (102.8%)	こどものための手作り絵本講座 おとなのための手作り絵本講座 *先着順
トモイク	手作り絵本講座 展示	主催	こども: 8月4日(日) おとな: 12月24日(火)~27日(金)	—	ギャラリー	—	無料	—	こども:15作品展示 おとな:11作品展示

*特記がない場合の招待は出演者関係および情報発信ボランティアライター

	事業名	開催形式	実施日時	発売月日	会場	対象 /定員	チケット料金	入場者数 (入場率)	備考 〔チケット販売枚数(前月末時点) または申し込み人数〕
【ホールオープナー】									
社会的包摂	0才からのコンサート こどもプリッツ ～小さな小さな吹奏楽～	主催	11:00 開演	4月21日(日)	なぎさホール	どなたでも/554名	全席指定 おとな1,000円 こども500円	381名 (68.7%)	[招待4名含む] 最終券売数: 394枚 (おとな222枚、こども172枚) *0才からチケット必要
鑑賞	EMPTY KRAFT Special LIVE Vol.2	主催	14:00 開演	4月21日(日)	さざなみホール	どなたでも/130名	全席自由 1,800円	99名 (76.1%)	[招待3名、未就学児6名含む] 最終券売数: 106枚 *未就学児先着10名無料
トモイク	オルゴールを鳴らすカード作り ～パチパチ穴あけ、クルクル演奏～	主催	10:00～15:20	—	市民交流 センター	親子/各回10組×4回	—	21組 (52.5%)	21組52名参加 (カード作り: 27名)
トモイク	サンキャッチャーづくり体験	主催	11:00～16:00	当日受付	ギャラリー	どなたでも/各回40名× 2回	参加費 500円	81名 (101.2%)	*当日先着順10:00～整理券配布
まちづくり	ホールのお仕事をしてみよう♪ こどもレセ体験	主催	10:00～12:30	7月1日(月) 申込開始	なぎさホール	小中学生/8名	無料	8名 (100.0%)	キャンセル待ち1名 *定員になり次第締切 *「0才からのコンサート」 鑑賞チケット付
まちづくり	ホールのお仕事をしてみよう♪ こども1日館長	主催	13:00～15:00	—	—	—	—	—	こどもレセ体験に内包して実施 個別イベントとしては実施なし
まちづくり	マルっと文ブラ フェスティバル盆踊り	主催	17:30 開演	—	フェスティバル パーク	—	—	50名	
まちづくり	和文化再発見! 和太鼓体験	主催	16:00～17:30	当日受付	なぎさホール	どなたでも/各回10名× 3回	無料	32名 (106.6%)	*当日先着順12:00～整理券配布
まちづくり	手作り絵本のミニ展覧会	主催	10:00～17:00	—	ギャラリー	どなたでも	無料	—	作品展示: 15名 *「こどものための手作り絵本講座」で完成した絵本の展示
まちづくり	図書館おはなし会 ～withこどもプリッツ～	主催	10:15～10:40	—	図書館	どなたでも	無料	—	クラリネット(プリッツフィルハーモニックウインズ)がミニ 演奏会を開催
まちづくり	プラザをまわる★ スタンプラリー	主催	10:00～17:00	—	ホール、 交流センター	—	無料	—	ホール3か所、交流センター1か所に設置 *景品: オリジナルノート *景品受取り: 135名
まちづくり	「みんなで踊ろう東京五輪音頭-2020-」	主催 (協力)	8月12日 (月・祝)	—	逗子アリーナ	—	—	—	

*特記がない場合の招待は出演者関係および情報発信ボランティア
イター

	事業名	開催形式	実施日時	発売月日	会場	対象 /定員	チケット料金	入場者数 (入場率)	備考 〔チケット販売枚数(前月末時点) または申し込み人数〕
トモイク	レセプション フォローアップセミナー	主催	3月1日(日)	—	なぎさホール	22名	無料	中止	*新型コロナウイルス感染拡大に伴い中止
トモイク	情報発信協力ボランティア スキルアップ講座(仮)	主催	3月7日(土)	—	さざなみホール	13名	無料	中止	*新型コロナウイルス感染拡大に伴い中止
まちづくり	避難訓練コンサート	主催	9月3日(火)	7月1日(月)	なぎさホール	100名	無料	93名 (93.0%)	最終申込み数：105名 *事前応募制
まちづくり	和太鼓グループ“彩” アウトリーチ	主催	①8月26日(月) ②9月14日(土)	—	①双葉保育園 ②逗子杜の郷	—	無料	①130名 ②100名	和太鼓グループ“彩” ①【済】双葉保育園 ②逗子杜の郷 *コミュニティ助成事業
まちづくり	アウトリーチ アート便2019	主催	9~3月開催	—	市内小中学校	—	—	①114名 ②221名 ③96名 ④85名 ⑤188名 ⑥100名 ⑦62名 ⑧138名 ⑨120名	落語(三遊亭わん丈、三遊亭天歌) ①【済】9月13日(金)久木小学校4年生(1) ②【済】9月26日(木)逗子中学校1・2年生(2) ④【済】10月8日(火)沼間小学校3年生(1) ⑤【済】10月23日(水) 池子小学校3・4・5・6年生(2) ⑧【済】11月26日(火)逗子小学校5年生(2) ⑩3月2日(月)久木中学校2・3年生(4) *新型コロナウイルス感染拡大に伴い中止 ⑪3月3日(火)沼間中学校1・3年生(2) *新型コロナウイルス感染拡大に伴い中止 ダンス×ミュージック (EMPTY KRAFT) ③【済】10月3日(木)沼間小学校5年生(1) ⑦【済】11月25日(月)小坪小学校5年生(1) ⑨【済】1月28日(火)逗子小学校6年生(2) 音楽(ブリッツフィルハーモニックウインズ) ⑥【済】11月15日(金)聖マリア幼稚園
鑑賞	東京大衆歌謡楽団 -昭和、懐かしの名曲を唄う-	主催	9月7日(土)14:00開演	5月19日(日)	なぎさホール	536名 ※P A 18席を除く	全席指定 一般3,000円 当日：一般3,500円	387名 (72.2%)	[招待4名含む] 最終券売数：396枚(当日券7枚) *未就学児入場不可
まちづくり	ブリッツ吹奏楽クリニック アンサンブルチャレンジ!	主催	9月28日(土)・ 10月6日(日)	—	なぎさホール	—	無料	—	9月28日(土) 沼間中学校2団体(木管打楽器8重奏、金管6重奏)、逗子開成 中学校・高等学校2団体(木管8重奏、金管8重奏) 10月6日(日) 久木中学校1団体(全体合奏役20名)

	事業名	開催形式	実施日時	発売月日	会場	対象 /定員	チケット料金	入場者数 (入場率)	備考 〔チケット販売枚数(前月末時点) または申し込み人数〕
トモイク	和太鼓グループ“彩” 逗子公演	主催	10月5日(土)	7月14日(日)	なぎさホール	516名 ※撮影用38席を除く	全席自由 一般1,500円 高校生以下800円	502名 (97.2%)	[招待4名含む(うち2名関係者)] 最終券売数: 516枚 (一般479枚、高校生以下37枚) *未就学児入場不可
まちづくり	ZUSHIパフォーマーズフェスタ Vol.5	主催	10月19日(土)	9月1日(日)	さざなみホール	一般/130名	全席自由 500円	68名 (52.3%)	[招待1名含む] 最終券売数: 118枚 *出演5組
まちづくり	おとなの休日・秋 コミュニティパークとの連携	主催	11月3日(日)	—	亀岡八幡宮	—	—	—	若手演奏家シリーズ#10出演者が出張演奏
鑑賞	さざなみ亭落語会 三遊亭わん丈& みんなで創る落語会 其の三	主催	11月16日(土)	8月25日(日)	さざなみホール	一般/130名	全席自由 1,800円	122名 (93.8%)	[招待5名含む(うち2名関係者)] 最終券売数: 123枚 *未就学児入場不可
社会的包摂	ファミリーミュージカル 「ピノッキオの冒険」	主催	12月1日(日)	8月25日(日)	なぎさホール	一般/554名	全席指定/前売り: おとな1,500円 子ども500円 当日:おとな1,800円 子ども700円	515名 (92.6%)	[招待2名含む] 最終券売数: 547枚 *0才からチケット必要
地域資源	なぎさプラスソリスト コンサート第15回	主催	12月2日(月) 19:00開演	8月25日(日)	なぎさホール	548名 ※撮影用 6席を除く	全席指定 一般4,000円 高校生2,500円 小中学生1,000円	383名 (69.8%)	[招待10名含む(うち8名協賛社)] 最終券売数: 403枚 *未就学児入場不可
鑑賞	なぎさジャズコレクション 山下洋輔 JAZZ LIVE	主催	12月14日(土) 15:00開演	9月1日(日)	なぎさホール	一般/532名 ※PA22席を除く	全席指定 一般3,500円 当日:一般4,000円	511名 (96.0%)	[招待2名含む] 最終券売数: 525枚 *未就学児入場不可
鑑賞	初春 バレエ祝賀コンサート	共催	2020年 1月6日(月) 14:00開演	8月25日(日)	なぎさホール	一般/554名	全席指定 3,800円	250名 (45.1%)	[関係者招待55名含む] *未就学児入場不可 *主催:インプレサリオ東京
鑑賞	新春雅楽	主催	2020年 1月25日(土) 14:00開演	10月27日(日)	なぎさホール	一般/554名	全席指定 一般4,000円 高校生以下2,000円	239名 (43.1%)	[招待83名含む(うち73名関係者)] 最終券売数: 162枚 *未就学児入場不可
トモイク	雅楽 楽器体験	主催	2020年 1月25日(土) 公演終了後	10月27日(日)	なぎさホール 練習室	80名	無料	31名 (38.7%)	[申し込み37名] *事前申込制
鑑賞	沖仁 oon 木村大 情熱のギターコンサート	主催	2020年 2月8日(土) 15:00開演	11月10日(日)	なぎさホール	一般/526名 ※PA28席を除く	全席指定 一般4,000円 高校生以下2,000円	514名 (97.7%)	[招待12名含む(うち1名関係者)] 最終券売数: 510枚 *未就学児入場不可
鑑賞	逗子落語会 柳家花緑・柳家三三 二人会	主催	2020年 2月22日(土) 14:00開演	11月10日(日)	なぎさホール	一般/554名	全席指定 一般3,500円 高校生以下2,000円	436名 (78.7%)	[招待3名含む] 最終券売数: 489枚 *未就学児入場不可

*特記がない場合の招待は出演者関係および情報発信ボランティア
イター

	事業名	開催形式	実施日時	発売月日	会場	対象 /定員	チケット料金	入場者数 (入場率)	備考 〔チケット販売枚数(前月末時点) または申し込み人数〕
社会的包摂	ウィークデーマチネ 神奈川フィルハーモニー管弦楽団アンサンブル	主催	2020年 2月12日(水) 13:00開演	11月10日(日)	さざなみホール	一般/130名	全席自由 2,000円	75名 (57.6%)	[招待6名含む(うち5名関係者)] 最終券売数:70枚 *未就学児入場不可
地域資源	若手演奏家シリーズ#10 音の饗宴 -ソプラノ×ヴァイオリン×ピアノ-	主催	2020年 3月8日(日) 14:00開演	10月27日(日)	さざなみホール	一般/130名	全席自由 1,000円	中止	*未就学児入場不可 *新型コロナウイルス感染拡大に伴い中止
トモイク	第23回 癒しのクラシックコンサート オーケストラ演奏会	共催	2020年 3月14日(土) 開演未定	12月7日(土)	なぎさホール	200名	全席指定 3,000円	中止	*未就学児入場不可 *主催:癒しの医療を考える会 *新型コロナウイルス感染拡大に伴い中止
まちづくり	講座「舞台の仕事について知る」	主催	①10月21日(月) ②10月28日(月)	—	逗子高等学校	1学年(278名)/20名	—	—	18名受講
トモイク	トモイクフェスティバル	共催	2020年3月 21日(土)・22日(日)	—	なぎさホール さざなみホール ギャラリー	一般	—	中止	*新型コロナウイルス感染拡大に伴い中止(2/20中止決定)

*特記がない場合の招待は出演者関係および情報発信ボランティア
ライター

2. 逗子市文化振興基本計画調査・評価委員会規則

(趣旨)

第1条 この規則は、逗子市文化振興条例（平成21年逗子市条例第15号）第7条第1項の規定に基づき、逗子市文化振興基本計画調査・評価委員会（以下「委員会」という。）を設置し、その運営について必要な事項を定めるものとする。

(所掌事項)

第2条 委員会は、次に掲げる事項について調査及び評価を行い、その結果を教育長に提言する。

- (1) 逗子市文化振興基本計画（以下「基本計画」という。）における施策に関する適切な実施に関すること。
- (2) その他基本計画に関すること。

(組織)

第3条 委員会は、委員5人以内をもって組織する。

(委員)

第4条 委員は、次に掲げる者のうちから教育長が委嘱する。

- (1) 公募による市民
 - (2) 学識経験を有する者
 - (3) その他教育長が特に必要であると認める者
- 2 委員の任期は、3年とする。ただし、委員が欠けた場合における補欠委員の任期は、前任者の残任期間とする。
- 3 委員は、再任されることができる。

(委員長等)

第5条 委員会に委員長及び副委員長を置き、委員の互選により定める。

- 2 委員長及び副委員長の任期は、委員の任期による。
- 3 委員長は、委員会を代表し、会務を総理する。
- 4 副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故があるとき又は委員長が欠けたときは、その職務を代理する。

(会議)

第6条 委員会の会議は、委員長が招集し、その議長となる。

- 2 委員会は、委員の半数以上の出席がなければ会議を開くことができない。
- 3 委員会の議事は、出席委員の過半数をもって決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

(意見の聴取等)

第7条 委員長は、必要があると認めるときは、専門的事項について学識を有する者、市職員その他の者に対し、その出席を求めて意見又は説明を聴くことができるほか、資料の提出その他必要な協力を求めることができる。

(庶務)

第8条 委員会の庶務は、文化スポーツ課において処理する。

(委任)

第9条 この規則に定めるもののほか、委員会の運営について必要な事項は、教育長が別に定める。

附 則

(施行期日)

- 1 この規則は、平成24年4月1日から施行する。

(招集の特例)

- 2 委員会の最初の会議は、第6条第1項の規定にかかわらず、教育長が招集する。

3. 逗子市文化振興基本計画調査・評価委員会 名簿

役職	委員氏名	団体名、所属等
委員長	伊藤 裕夫	学識経験者（元富山大学芸術文化学部教授）
副委員長	富岡 幸一郎	学識経験者（鎌倉文学館館長）
	山崎 稔恵	学識経験者（関東学院大学教授）
	奥野 花代子	（市民）

（敬称略）

4. 逗子市文化振興基本計画 調査・評価委員会 会議日程

第1回 会議

開催日時：令和2年7月2日（木）午前10時30分～11時35分

開催場所：市役所 第一会議室

出席委員：伊藤裕夫委員長、山崎稔恵委員、奥野花代子委員

議題：（1）令和元年度事業に関する評価の対象、方法について
 （2）令和元年度文化振興事業について
 （3）その他

第2回 会議

開催日時：令和2年9月2日（水）午前10時30分～午後0時30分

開催場所：市役所 第二会議室

出席委員：伊藤裕夫委員長、富岡幸一郎副委員長、山崎稔恵委員、奥野花代子委員

議題：（1）令和元年度事業に関する評価について
 （2）令和2年度（令和元年度対象）逗子市教育委員会点検・評価に関する報告書について
 （3）その他

逗子市文化振興基本計画調査・評価委員会
令和元年度事業に関する評価報告書

発行 逗子市文化振興基本計画調査・評価委員会
発行日 2020年（令和2年）10月
編集 逗子市市民協働部文化スポーツ課
〒249-8686 神奈川県逗子市逗子 5-2-16
TEL: 046-873-1111 FAX: 046-873-4520
E-mail: bunkasports@city.zushi.lg.jp